令和５年度第１回豊田市学校給食センター運営委員会　議事概要

日時：令和６年１月２６日（金）　午後１時３０分から午後３時
場所：豊田市役所南庁舎　５階　南５１会議室
委員：
＜参加者＞　１１名
　委員長　：小松　ゆかり（小中学校長代表）
　副委員長：田口　真穂　（小中学校長代表）
　委員　　：石田　明子　（こども園園長代表）
　　嶋﨑　由美　（こども園園長代表）
　　江島　徹　　（豊田市 PTA 連絡協議会代表）
　　高橋　絵里子（小中学校給食主任代表）
　　伏見　珠穂　（小中学校給食主任代表）
　　森岡　髙恵　（栄養教諭・学校栄養職員代表）
　　重田　玲子　（栄養教諭・学校栄養職員代表）
　　富口　潤之輔（豊田加茂薬剤師会理事）
　　成田　美樹　（市民公募委員）

＜欠席者＞　４名
　委員　　：坂井　円　　（こども園保護者代表）
　　竹内　清美　（豊田市保健所長）
　　安藤　伯秋　（豊田加茂学校保健会会長）
　　神谷　雅之　（市民公募委員）

　事務局　：中垣　秋紀　（教育部副部長）
　　加藤　世明　（保健給食課長）
　　吉野　奈美　（保健給食課副課長）
　　中尾　圭　　（保健給食課担当長）
　　若杉　彩衣　（保健給食課主事）
　　藤田　和　　（保健給食課書記）
　　加藤　由美子（保育課副主幹）

次第

1　あいさつ
2　委員紹介
3　豊田市学校給食センター運営委員会について
4　委員長及び副委員長の選出
5　委員長あいさつ
6　豊田市学校給食の概要について
7　議題
　（１）学校給食費について
　（２）子どもの意見・食育について
8　その他

＜要点＞

委員長に小松委員、副委員長に田口委員を選出

議題１　　学校給食費について

献立作成における取組内容や物価高騰に対する市の対応を報告した。

議題２　　子どもの意見・食育について

タブレットの活用などで、子どもたちの意見を聞く機会を増やしていくこととした。

議事の摘要

（委員長及び副委員長の選出）

委員改選に伴い、委員長に小松委員、副委員長に田口委員を選出

（豊田市学校給食の概要について）

＜意見・質問等＞

委員　　オーガニック食材を給食で使用する話をよく聞くが、豊田市の場合、学校給食協会に登録が必要かと思うが、物資の納入や仕入れの方法はどのようになるか。旭地区や稲武地区では、地元の食材を使っているが、その他の給食センターでは使用していない印象がある。特別栽培の赤とんぼ米が給食で使用されるという話も伺った。

事務局　　赤とんぼ米については２月に使用する。昨今、有機農産物や特別栽培といった食材については、国からも給食に積極的に取り入れる旨の通知があっ

た。本市の給食は１日約５万食を提供するため、個人農家では調整困難であり、学校給食協会の登録業者からの納入となる。市内のものを優先しながら、市外や県外から納品して必要な量の確保をしている。

委員　　豊田市の農家と話す機会があったが、豊田市でも米だけでも有機農産物を導入することはできないのか。

事務局　　米については、愛知県学校給食会から納入しており、豊田市産の大地の風を使用していて、現在提供しているものは、子どもたちの健康に問題ないものといえる。有機栽培のものは高額であるため、地元農産物が活性化していく形での給食での活用を進めていきたい。

委員　　栄養教諭の配置校以外では、毎年食に関する指導を栄養教諭にお願いしているが、子どもたちの食に関する興味関心が年々薄れてきているように感じる。栄養教諭が各学校に巡回できるような配置形態はできないか。

事務局　　配置については、１９名と少人数であり、学校と給食センターを行き来する必要があるため、給食センターに近い配置としている。経験年数の少ない栄養教諭が多いため、学校における立場の確立が必要であり、今後、食に関する指導の拡充などを検討していく。

（議題１　学校給食費について）

＜意見・質問等＞

委員　　給食費の動向は不透明であるが、食材料費が上昇したりすることで、児童生徒用の白衣や配膳備品等の購入が抑制されることはあるのか。

事務局　　現段階で想定するものはない。

委員　　物価高騰の状況下では、１人ずつの紙パックではなく、１リットルの大きな容器で出せば価格も安くなり、余った牛乳を飲めば、栄養素摂取も可能ではないか。

事務局　　乳アレルギーをもつ児童生徒もおり、個別に移して配膳することはリスクも伴うため、個人毎の紙パックでの提供となる。

委員　　１食分の栄養価を考慮して献立作成を行っているため、牛乳は個人毎のパッ

クでの提供となる。給食用物資の選定の場面では、単価が安いだけでなく、安くて品質の良いものを選定している。

委員　　過去の委員会においても、食品添加物で栄養素を補う話題が出たが、昨年度の結果でも、食物繊維や鉄などが不足しており、豊田市としては食物だけで栄養素を補うという考え方か。

事務局　　基本的には、添加物に頼らず、食物によって栄養素を保っていくという考え方である。

（議題２　子どもの意見・食育について）

＜意見・質問等＞

委員　　以前、学校現場で残食が多いため酢の物をやめてほしいという意見があったと聞いた。給食を残さず食べるかの前提として、好き嫌いがあると思うが、給食で何が残っていて、子どもたちが好きな食材は何であるかをデータでとっているか。

事務局　　コロナ禍により、残食量を測ることを控えていたため、最近の残食に係る統計的なデータはない。食育の一環として、残食の出やすいものを調理の工夫により子どもたちが食べられるように提供していきたい。

委員　　嫌いなら食べなくてもよいと大人が言うと、子どもたちにも影響を与えてしまう。給食の準備や配膳をするまでの時間を競ったりするので、中学生は給食を楽しくないという意見も聞いたことがあるが、このような競い合いを教育面ではどのように考えるか。

委員　　中学校では、時間に余裕をもって会食を楽しむために、準備の時間を短くする取組みを実施している場合があり、生徒もだんだん慣れてくる。好き嫌いに関しては、担任の先生から食べることを推奨して伝えることはあるが、給食の時間を楽しく思うことで、苦手な野菜なども少しでも子どもたちが食べられる機会になるとよい。

委員　　コロナ禍による黙食時には、量の調整やおかわりができなかったことで、学校現場では残食が増えていた。現在では、楽しそうに食べる子どもたちが増えるなど、給食時間の環境変化も大きく、食べる量も増えてきている感じがする。

委員　　酢の物や煮物といったものは比較的残食が多いが、そういったものほど子どもたちに食べてほしい。豊田市は食材の提供量も多く、市内産食材を多く使用して給食を提供している。給食は食の教材であり、食事の見本となるため、日常生活の健康へと繋がっていることを学べるように努めてほしい。

委員　　こども園では、好き嫌いに関しては、無理して食べなくてよいと伝えているが、食育の基礎として、楽しい雰囲気のなかで、食に対する興味や美味しさを感じてもらえるように取り組んでいる。

委員　　こども園の保護者は、働きながら弁当を作るのは大変なことであり、給食の提供があることで本当に助かっている。子どもたちも毎日楽しみに給食を待っている。

委員　　自分の子どもたちも給食を楽しみにしている。多くの制限があるなかで、質の高い給食を提供しているありがたみを感じた。今後も子どもたちの健康を第一に、給食の提供を続けてほしい。